

2. 事業の概要と成果																						
(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)	女子の中等教育の就学率が低い KP 州トルガー郡、マンセラ郡、アボダバード郡で、計 4 校の公立学校の学習環境改善を通じ、計 3,036 名の女子に中等教育へのアクセス及び質の高い教育を確保した。教員や保護者への研修、女子児童の能力強化及びコミュニティや州レベルのアドボカシー活動を展開するなどソフト面の支援も行い、効果の発現を促進した。																					
	教育施設の拡充により、女子の中等教育就学環境が改善するとともに、関係者への研修やアドボカシーグループの形成を通じ、教育の質や女子の中等教育促進に取り組む地域全体の意識が向上する																					
(2) 事業内容	1. 女子の中等教育就学促進のための施設拡充 トルガー郡の中学校 2 校、アボダバード郡とマンセラ郡の高等学校各 1 校の計 4 校の校舎施設を建設・増設し、女子が安全な学習環境へアクセスできるよう整備した。あわせて、女子就学の阻害要因であったトイレや境界壁等の施設不足を解消するとともに、耐用年数が長く災害時にも備えられる太陽光パネルを設置した。また、学区内で中核的な役割を持つ Lora 校には多目的ホールを建設した。各建設地には業者による現場監督配置に加え、当団体エンジニアを常駐させ、工事の進捗と品質の日常的なダブルチェックを行った。また、政府職員が事業地を視察し、工事内容が学校設備の基準に適合するかなど検査、確認した。 新型コロナウイルス感染拡大の影響で学校が数か月間閉鎖されたり、移動制限がかかったりしたため、建設の作業計画を頻繁に変更した。建設資材、特に鉄鋼やセメント、ガソリンの急騰により、建設費が予算を上回ったことから追加予算を他項目からの流用や自己資金により充当した。また、中等教育に必要な学校家具の供与を行ったが、建設費の高騰等により一部支給を中止した。さらに対象地はいずれも山岳地にあるほか、New Kalay 校はインダス河対岸にあるため、建設資材をボートとロバを介して輸送したが、冬の間は水位が低く輸送に困難をきたし、工事活動の進捗に影響を及ぼした。 なお、各校舎落成時には、校舎中心部にプレートを、主に校門付近にサインボードを設置した。																					
	表 1：建設工事及び提供した学校家具の概要 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>学校名</th><th>工事内容</th><th>供与家具</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>New Kalay 小中一貫校</td><td>2 階建て鉄筋コンクリート構造の教室棟の建設（教室 7、職員室 1）、境界壁の修繕、トイレ棟、水道・水タンク、太陽光パネル設置及び電気工事等 (但し、1 階部分(教室 4)は初等教育向け。)</td><td>机／ベンチ 72、職員用椅子 6、校長用机 1、校長用椅子 1</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Judbah 小中一貫校</td><td>2 階建て鉄筋コンクリート構造の教室棟の建設（教室 3、職員室 1）、境界壁及び擁壁の建設、トイレ棟、水道・水タンク、太陽光パネル設置及び電気工事等</td><td>机／ベンチ 36、職員用椅子 6、校長用机 1、校長用椅子 1</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Shinkiarri 初級高等学校</td><td>平屋建て教室棟の 2 階の増築（教室 8、職員室 1）、トイレ棟、水道・水タンク、太陽光パネル設置及び電気工事等</td><td>机／ベンチ 104、職員用椅子 6、校長用机 1、校長用椅子 1</td></tr> <tr> <td>4</td><td>Lora 初級高等学校 多目的ホール</td><td>2 階建て鉄筋コンクリート構造の教室棟の建設（教室 6、職員室 1）及び多目的ホール 1 の建設、トイレ棟、水道・水タンク、太陽光パネル設置及び電気工事等</td><td>机／ベンチ 78、職員用椅子 6、校長用机 1、校長用椅子 1</td></tr> </tbody> </table>				学校名	工事内容	供与家具	1	New Kalay 小中一貫校	2 階建て鉄筋コンクリート構造の教室棟の建設（教室 7、職員室 1）、境界壁の修繕、トイレ棟、水道・水タンク、太陽光パネル設置及び電気工事等 (但し、1 階部分(教室 4)は初等教育向け。)	机／ベンチ 72、職員用椅子 6、校長用机 1、校長用椅子 1	2	Judbah 小中一貫校	2 階建て鉄筋コンクリート構造の教室棟の建設（教室 3、職員室 1）、境界壁及び擁壁の建設、トイレ棟、水道・水タンク、太陽光パネル設置及び電気工事等	机／ベンチ 36、職員用椅子 6、校長用机 1、校長用椅子 1	3	Shinkiarri 初級高等学校	平屋建て教室棟の 2 階の増築（教室 8、職員室 1）、トイレ棟、水道・水タンク、太陽光パネル設置及び電気工事等	机／ベンチ 104、職員用椅子 6、校長用机 1、校長用椅子 1	4	Lora 初級高等学校 多目的ホール	2 階建て鉄筋コンクリート構造の教室棟の建設（教室 6、職員室 1）及び多目的ホール 1 の建設、トイレ棟、水道・水タンク、太陽光パネル設置及び電気工事等
	学校名	工事内容	供与家具																			
1	New Kalay 小中一貫校	2 階建て鉄筋コンクリート構造の教室棟の建設（教室 7、職員室 1）、境界壁の修繕、トイレ棟、水道・水タンク、太陽光パネル設置及び電気工事等 (但し、1 階部分(教室 4)は初等教育向け。)	机／ベンチ 72、職員用椅子 6、校長用机 1、校長用椅子 1																			
2	Judbah 小中一貫校	2 階建て鉄筋コンクリート構造の教室棟の建設（教室 3、職員室 1）、境界壁及び擁壁の建設、トイレ棟、水道・水タンク、太陽光パネル設置及び電気工事等	机／ベンチ 36、職員用椅子 6、校長用机 1、校長用椅子 1																			
3	Shinkiarri 初級高等学校	平屋建て教室棟の 2 階の増築（教室 8、職員室 1）、トイレ棟、水道・水タンク、太陽光パネル設置及び電気工事等	机／ベンチ 104、職員用椅子 6、校長用机 1、校長用椅子 1																			
4	Lora 初級高等学校 多目的ホール	2 階建て鉄筋コンクリート構造の教室棟の建設（教室 6、職員室 1）及び多目的ホール 1 の建設、トイレ棟、水道・水タンク、太陽光パネル設置及び電気工事等	机／ベンチ 78、職員用椅子 6、校長用机 1、校長用椅子 1																			

2. 女子教育の質向上のための教員、保護者への研修及び ICT の活用とライフスキル教育の実施

より質の高い教育を提供し、事業成果を持続させることができるよう、教育環境整備に加え、教員や保護者への研修及び女子児童へのライフスキル教育などソフト面も支援した。ICT 機器の設置については建設費急騰やインフレの影響により支給を中止した。研修の実施概要は以下のとおり。

表 2. 研修等実施の概要

研修対象	計画	実績	研修概要	備考
教員	88 名（女性）、各校計 3 回、1 日間 場所は各校	1 回目 3 月 参加者 4 校計 92 名 2 回目 6～7 月 参加者 4 校計 85 名 3 回目 9 月 参加者 4 校計 83 名 各回 1 日間 開催場所は各校	双方向の教授法、アクティビティベースの学習法、ピアラーニング、探求型学習、体験学習法、プロジェクト型学習法等。	コロナ禍における移動制限回避のため、トルガール郡教育局の提案で New Kalay 校と Judbah の研修を合同で実施した。Shinkiarri 校は教員数が多いため、各回 2 グループに分けて実施した。
PTC(保護者)	32 名（女性）、各校 2 回、1 日間 場所は各校	1 回目 5～6 月 2 回目 7～8 月 各校の PTC メンバー 8 名全員が 2 回とも参加 各回 1 日間 開催場所は各校	PTC の役割と責任、定期会合、会計管理等運営方法、学校運営への参画法、学校改善計画の作成、子どもの権利と女子教育の重要性、学校現場の課題共有等	コロナ禍における学校閉鎖や集会の禁止、移動制限により予定よりも実施が遅れたが、6 月～8 月に全回実施した。なお、PTC フォローアップミーティングを計 8 回実施した。
ガールズサークル（GC）メンバーを含む対象校の女子児童	各校 15 名、計 60 名、各校 3 回、半日間	New Kalay 校 計 4 回実施 延べ 73 名（内 GC 52 名） Judbah 校 計 5 回実施 延べ 99 名（内 GC 75 名） Shinkiarri 校 計 5 回実施 延べ 104 名（内 GC 53 名） Lora 校 計 5 回実施 延べ 107 名（内 GC 60 名） 各回 1 日間 開催場所は各校	ライフスキル教育 内容：健康と衛生管理、ポジティブシンキング、批判的思考力、対人関係スキル、コミュニケーションスキル、意思決定、問題解決、チームワーク、自己認識、他者理解など。	2021 年 3 月下旬から 6 月上旬まで新型コロナウイルス感染拡大防止で学校が閉鎖となったため、計画よりも若干の遅滞があったが、女子児童からライフスキルセッション実施への要望もあり、計画の 3 回よりも回数を増し実施した。
ICT 機器設置	5 カ月目に設置	支給中止	機器使用法等	建設費急騰やインフレの影響により支給中止。

教員研修では、生徒同士が互いに協力しながら学ぶピアラーニング、子どもを中心とした指導法など、これまで教員が続けてきた教授法を一新させるアプローチを研修にて紹介、

授業で実践できるよう指導した。また、効果測定のために、新しい指導法への理解度や意識の変化を測るアンケートを実施、それをもとに参加者間で意見交換を行った。

PTC 研修の 1 回目は PTC の構造、役割と責任、記録や会計管理など運営スキルを指導し、2 回目は学校運営改善計画の作成及び女子教育の重要性の議論を交えながら理解を深めた。学校ごとに計 2 回のフォローアップミーティングを持ち、PTC が実際のどの程度学校運営に関与できたか進捗を把握し、状況に応じた話し合いや助言の提供を行う場とした。

対象各校でそれぞれ 15 名から成るガールズサークルを形成した。加えてその活動実施をフォローする教員も各校で任命された。ライフスキル教育は、①生活能力の向上、②ポジティブシンキングや批判的思考の促進、③健康と衛生に関する意識向上、④対人コミュニケーションと社会性の強化を主な目的とした。双方向のディスカッション、ロールプレイやインタビューを盛り込み、コミュニケーション力や思考力向上の相乗効果も見られた。

なお、研修実施時にはサインボードを設置し、対外的な広報にも努めた。

3. 女子の就学機会の保障及び中等教育就学促進のためのアドボカシー活動（コミュニティ及び州レベル）

対象 4 カ所の UC において、住民代表 10 名によるアドボカシーグループ（CAG）の組織化を行った。本事業の説明と今後の CAG の役割やアドボカシーの仕組みを説明するコミュニティミーティングを各 UC にて設けた。各地でミーティングに参加した人数及びアドボカシー活動の実績は以下のとおり。

表 3. コミュニティミーティング参加人数

	郡	UC	参加者		
			計	男性	女性
1	トルガー	Ghari Hasan Zai	66	66	0
2		Judbah	56	55	1
3	アボダバード	Lora	87	18	69
4	マンセラ	Shinkhari	73	11	62
合計 564 名			282	150	132

表 4. アドボカシー活動の実績

活動	計画	実績
CAG	住民代表 10 名による CAG の組織化（各 UC）	UC 計 4 カ所で住民代表 10 名による CAG が組織化された。
KPG	計 9 名による KPG の形成 CAG と各郡教育局の調整会議 1 回、CAG・各郡教育局 KPG の調整会議 2 回	州レベルの KPG（州議会メンバー 3 名及び、トルガー郡、アボダバード郡、マンセラ郡からの代表各 2 名の計 9 名で構成、KP 州教育相と上席企画専門官が名誉アドバイザーとして参画）が形成された。CAG と各郡教育局の調整会議を 1 回実施、残る 1 回は中止。
ニュースレター、パンフレット、ポスターの作成・配布	ニュースレター 125 部 2 回発行、パンフレット・ポスター 300 部作成、及び配布	ニュースレター 125 部を 2 回発行、パンフレット・ポスター 300 部を作成し、関係者に配布した。

アドボカシーグループ（CAG）が 4 カ所で立ち上がった。CAG は市民活動家、自治体議員、宗教的リーダーなどで構成され、計 40 名のうち 15 名を女性が占めた。定期的に会合を持ち、コミュニティ内の女子教育の問題点やニーズを話し合い、政府に働きかけるべき

	重要な課題を特定、各郡当局との対話を開始した。さらに、コミュニティの中でいかに効果的に啓発活動を行っていくかメンバー間で議論を深め、ネットワークの重要性や根拠のあるメッセージの作り方、発信法などについて話し合うなど主体性も発現し出している。 また、KP 州議会内にアドボカシーグループ（KPG）が組織化され、2021 年 3 月 KPG、CAG 及び各郡教育局との 1 回目の調整会議を行った。KPG による CAG と各郡教育局との三者調整会議を当初 2 回開催する計画であったが、事業の最終月である 2021 年 11 月に予定していた 2 回目の会議は同月に州選挙実施が急遽決定されたことから中止した。関係三者が一堂に会する機会は限られたものの、CAG と各郡教育局による会議の回数を増やし個別に行うことで、行政への女子教育に関わる地域の課題やニーズの共有を行った。同会議実施実績は下記のとおり。 2021 年 10 月 12 日 UC Lora の CAG とアボダバード郡教育局 2021 年 11 月 9 日 UC Ghari Hasan Zai の CAG とトルガー郡教育局 2021 年 11 月 11 日 UC Judbah の CAG とトルガー郡教育局 2021 年 11 月 18 日 UC Shinkiari の CAG とマンセラ郡教育局 女子教育普及への啓発や各種研修の成果などを掲載したニュースレター第 1 号を 2021 年 6 月、第 2 号を 2021 年 10 月に発行し、対象学区の学校や保護者、コミュニティ、教育局、教育関係者に配布した。さらに、女子教育普及の実現を図り、住民の行動変容を促進する啓発パンフレットとポスターを計 300 部作成し、対象学区の学校や関係者及び周辺の住民に配布した。女子教育について理解を深められるような啓発を目的としたが、保守的な地域の文化的な価値観や女子教育の現状など文脈に配慮した内容を心がけた。												
(3) 達成された成果	1. <u>女子の中等教育就学促進のための施設拡充</u> 成果指標の達成状況は以下のとおりである。 表 5. 成果指標の達成状況（コンポーネント 1.） <table><tr><th>期待される成果</th><th>成果を測る指標</th><th>実績</th></tr><tr><td>● 非就学状態にある女子生徒の中等教育への就学や復学が促進される</td><td>✓ 対象中学校の純就学率が 95%に改善する(現在 40%) ✓ 対象高等学校の純就学率が 90%に改善する(現在 15%) ✓ 対象校の退学率が 41%から 4%に減少する</td><td>✓ 対象中学校の純就学率が 73%に改善した ✓ 対象高等学校の純就学率が 79%に改善した ✓ 対象中学校の退学率が 3.0%に減少した ✓ 対象高等学校の退学率が 1.5%に減少した</td></tr><tr><td>● 女子が通学しやすい学校環境が整う</td><td>✓ 対象生徒全員が衛生的なトイレや安全な水へのアクセスを確保</td><td>✓ 対象生徒全員が衛生的なトイレや安全な水へのアクセスを確保した</td></tr><tr><td>● 小中一貫の基礎小学校への拡大により、中等教育への女子のアクセスが向上する ● 初級高等学校への校舎建設の結果、過密状態が改善し収容能力が向上する</td><td>✓ 対象学区の非就学の女子児童 1,060 名が中等教育へ通学再開</td><td>✓ 2021 年 12 月までに計 1,026 名が入学登録を済ませた (加えて 2022 年 4 月までに少なくとも計 85 名が登録する予定である)</td></tr></table>	期待される成果	成果を測る指標	実績	● 非就学状態にある女子生徒の中等教育への就学や復学が促進される	✓ 対象中学校の純就学率が 95%に改善する(現在 40%) ✓ 対象高等学校の純就学率が 90%に改善する(現在 15%) ✓ 対象校の退学率が 41%から 4%に減少する	✓ 対象中学校の純就学率が 73%に改善した ✓ 対象高等学校の純就学率が 79%に改善した ✓ 対象中学校の退学率が 3.0%に減少した ✓ 対象高等学校の退学率が 1.5%に減少した	● 女子が通学しやすい学校環境が整う	✓ 対象生徒全員が衛生的なトイレや安全な水へのアクセスを確保	✓ 対象生徒全員が衛生的なトイレや安全な水へのアクセスを確保した	● 小中一貫の基礎小学校への拡大により、中等教育への女子のアクセスが向上する ● 初級高等学校への校舎建設の結果、過密状態が改善し収容能力が向上する	✓ 対象学区の非就学の女子児童 1,060 名が中等教育へ通学再開	✓ 2021 年 12 月までに計 1,026 名が入学登録を済ませた (加えて 2022 年 4 月までに少なくとも計 85 名が登録する予定である)
期待される成果	成果を測る指標	実績											
● 非就学状態にある女子生徒の中等教育への就学や復学が促進される	✓ 対象中学校の純就学率が 95%に改善する(現在 40%) ✓ 対象高等学校の純就学率が 90%に改善する(現在 15%) ✓ 対象校の退学率が 41%から 4%に減少する	✓ 対象中学校の純就学率が 73%に改善した ✓ 対象高等学校の純就学率が 79%に改善した ✓ 対象中学校の退学率が 3.0%に減少した ✓ 対象高等学校の退学率が 1.5%に減少した											
● 女子が通学しやすい学校環境が整う	✓ 対象生徒全員が衛生的なトイレや安全な水へのアクセスを確保	✓ 対象生徒全員が衛生的なトイレや安全な水へのアクセスを確保した											
● 小中一貫の基礎小学校への拡大により、中等教育への女子のアクセスが向上する ● 初級高等学校への校舎建設の結果、過密状態が改善し収容能力が向上する	✓ 対象学区の非就学の女子児童 1,060 名が中等教育へ通学再開	✓ 2021 年 12 月までに計 1,026 名が入学登録を済ませた (加えて 2022 年 4 月までに少なくとも計 85 名が登録する予定である)											

● 初級高等学校への多目的ホール設置により、課外活動や学習の評価、また教員研修が充実し、教育の質が向上する	✓ 新設された多目的ホールで、学区内公立小中高等学校計 58 校が課外活動ならびに定期試験を実施するほか、教育局が教員養成研修に定期使用する	✓ 多目的ホールを設置したが、折り畳み式椅子の支給は既述の学校家具と同様に中止した ✓ 近隣の公立学校が課外活動に同ホールを使用開始したが、定期試験及び教員養成研修の実施はできていない
---	--	---

対象 4 校の学校環境を整備した結果、5～15 歳の生徒 3,036 名に安全で充実した学習環境へのアクセスを確保できた。2022 年の正式な入学時期 8 月¹までにはより多くの登録が見込まれる。女子の中学校施設が未だ設置されていなかったトルガー郡では施設の拡充が女子の進学の大きな後押しとなり、また、過密状態であった高等学校は入学を待っていた多数の女子児童を受入れることができた。さらに、トイレなどの衛生設備や校舎の安全を守る外壁の確保は、保護者が安心して子どもを通学させるなど女子の学校への再登録や通学継続を促した。女子生徒は学習への意欲を高め、欠席しがちであった教師のコミットメントも高められた。また、政府関係者による事業地への訪問とモニタリングは、学校や PTC と当局との密な連携を可能にするとともに、行政が現場の課題を把握する好機となった。

2. 女子教育の質向上のための教員、保護者への研修及び ICT の活用とライフスキル教育の実施

成果指標の達成状況は以下のとおりである。

表 6. 成果指標の達成状況（コンポーネント 2.）

期待される成果	成果を測る指標	実績
● 教員の能力や教授法が向上し、女子が学びやすい授業や学級運営が行われ、継続的通学が促進される	✓ 教員の 90%が学んだ指導法や新しい学級運営法を実践	✓ 研修に参加した教員の 85%が学んだ指導法や新しい学級運営法を実践した
● ICT 機器の活用により、質の高い授業が導入されると同時に女子児童の情報活用能力が育成される	✓ 生徒の学力テストの結果が平均 10%以上改善する ✓ 生徒の発言の頻度が増え、能動的に学習に取り組む姿勢が授業の都度確認される ✓ 教員 88 名の内 90%が授業に ICT 機器を使用し、生徒の主体的参加を促す	✓ 機器の設置を中止したため、いずれも測っていない
● 保護者が女子教育の重要性を認識し、学校運営への参画の度合いが高まる	✓ 対象全校が PTC を中心に学校運営改善計画を実施する	✓ 対象全校が PTC を中心に学校運営改善計画を作成し、実施している
● ガールズサークル（GC）が形成され、女子児童がライフスキルを習得する	✓ GC（各校 15 名）が計 4 校で活動を開始する ✓ GC 企画アクティビティ実施事例（各校 3 件以上）	✓ GC（各校 15 名）が計 4 校で活動開始した ✓ 全 4 校で GC 企画アクティビティの実施事例が各校 2 件以上確認された

¹ 新型コロナウイルス感染症の影響により、2022 年は例年の 4 月から 8 月に変更された。

研修参加後、学びを活かし、多数の教員が体験学習法など授業の実践方法に工夫を凝らす努力が見られると同時にモチベーションをもって指導にあたっている様子が確認できた。教員からは、研修の効果を表す次のような感想が寄せられた。「教室の中で生徒とのコミュニケーションをどう図っていくかを学べた」「生徒間の学び合いやアクティビティベースの学習法の重要性がわかった」「振り返りに焦点を当てた体験学習は非常に効果的」「子どもの想像力や思考力を育む認知スキルに注目した新しい学習法を学ぶことができた」また、Shinkiyari 校の主任教員は「生徒自身によるワークを増やして、生徒の才能を見出したり、生徒が自信を持って自己表現する機会を持つようになった」と研修参加後の教員を評価した。また「生徒がわからないことを質問できるよい雰囲気が醸成され、試験の結果も 20～25%向上している」と Lora 校の主任教員は述べた。一方、生徒からは「先生方の努力が私たちのやる気を引き出し、私たちの思考を尊重してくれます。先生のご指導の下、とてもリラックスした環境で学べるようになりました」という声があがっていた。

また、研修参加後、PTC は定期的に集まるようになり、学校運営改善計画を作成、各校の課題解決に向けて教育局と連携できる体制を作りつつある。フォローアップの結果、学校運営計画で設定された目標の 60%以上が対象各校で達成されたことが確認された。全 4 校の PTC が会議や会計の記録を適切にとり、これまで行われていなかった資金管理の情報に全メンバーがアクセス可能になった。学校運営計画には、非就学の女子のデータ、女子の復学に向けた目標設定、生徒や教員の出席率の改善、教育局との伝達や連携の仕方、教育の重要性に関わる親や地域への啓発などに対するアクションプランが含まれている。

全 4 校でガールズサークルが形成され、研修を受講した女子児童を中心に各校で活動が開始された。スポーツやスピーチコンテスト、ゲームなどのイベントを同サークルが自律的に企画実施し、ライフスキル習得の効果を顕現する機会ともなった。Shinkiyari 校の生徒からは「ライフスキルのセッションは、普段教室では話しづらい気持ちなどを共有できる機会。生徒同士、生徒と教師がつながる場にもなっている」「これまでの生活では持つことのできなかった問題解決や意思決定、自己管理のスキルを学べることはとても重要」といった声が聞かれた。ライフスキル教育の意義を生徒自身も実感し、またそれが事業の効果に付加価値をもたらしていることがわかった。コロナ禍で様々な制限のあった学校生活の中でも、ガールズサークルが中心となり、スポーツやスピーチコンテスト等のイベントが開催され、女子児童の快活な姿が以前にも増して目に映るようになっている。ガールズサークルの活躍は主に次のような事例で見られた。

●New Kalay 校：自宅近隣に住む非就学の友人を訪問、説得し、復学できるよう家族と話し合った結果、計 7 名の女子が復学を決めた。スピーチコンテストを企画実施。

●Judbah 校：自宅近隣に住む非就学の友人を訪問、説得し、復学できるよう家族と話し合った結果、計 5 名の女子が復学を決めた。フットボールゲームを企画実施。

●Shinkiyari 校：KP 州主催のスポーツ大会に出場したガールズサークルがすばらしいパフォーマンスを見せ、1 位を獲得。校内の文化祭、球技大会やレクリエーションイベントを企画実施。健康増進のためのエクササイズをクラスメートを集め週次で実施。

●Lora 校：アボダバード郡教育局職員を招き、文化祭を企画開催。フットボールゲームを企画実施。郡主催のゲーム・スピーチ・体育の競技会に出場し、サークルメンバーの一人が 2 位を獲得。サークルメンバーが率先して他の生徒に感染防止のための手順を指導。

上述のとおり、女子が自信を身に着け、積極性を増しており、将来地域で活躍する人材として高いポテンシャルを示し始めている。

3. 女子の就学機会の保障及び中等教育就学促進のためのアドボカシー活動（コミュニティ及び州レベル）

成果指標の達成状況は以下のとおりである。

表 7. 成果指標の達成状況（コンポーネント 3.）

期待される成果	成果を測る指標	実績
● 地域住民の意識が向上し、女子教育の課題に取り組み、行政に働きかけを行うことが可能な仕組みが形成される	✓ CAG が 4 か所の UC で形成され、活動を開始 ✓ CAG による郡当局への働きかけなどの事例（各 CAG1 件以上） ✓ 女子教育向上キャンペーンを開始するなどの住民の行動事例（各 UC1 件以上）	✓ CAG（各グループ 10 名）が 4 か所の UC で形成され、活動を開始した。対象学区の広域な Lora では加えてサポートグループが形成された ✓ CAG による郡当局への働きかけなどの事例各 CAG で 1 件以上が確認された ✓ 住民の行動事例各 UC で 1 件以上が確認された
● 各郡代表が、女子の中等教育向上に関するニーズを把握し、教育政策立案や実施過程に反映される	✓ 各郡代表が選ばれ、KPG（9 名）が州レベルで組織化し、活動を開始	✓ 各郡の代表が選ばれ、KPG（9 名）が州レベルで組織化し、活動を開始した
● 州政府、郡教育局、コミュニティ間に、女子の中等教育向上への取組を促進する情報共有や連携体制が築かれる	✓ KPG の働きかけで州政府が資源を動員した事例（期間中 2 件以上）	✓ KPG の働きかけで州政府が資源を動員した事例が 2 件確認された

対象各 UC で CAG が組織化され、女子教育の重要性に関わる議論を始めた。CAG は女子教育の課題について、継続的な解決策につながるよう、政策レベルに働きかけを行った。こうした CAG の主体的な取り組みとして次のような事例があげられる。

UC Ghari Hasan Zai（New Kalay 校所在地）と UC Judbah の協働：

- Newkalay 校と Judbah 校に高等部が併設されるよう、トルガー郡教育局に働きかけた。
- 就学の可能性のある計 72 名の女子児童を特定した。
- 女子中学校の需要の高い地域を特定し、中学校設立に向けトルガー郡教育局へ働きかけた。小学校 2 校が前期中等教育にアップグレードされることが決定した。

UC Shikiari：

- 非就学の女子児童の保護者とのミーティングを持った。
- マンセラ郡及び KP 州に働きかけた結果、Shikiari 校でシフト制の授業が導入され、より多くの女子が登録し、夕刻に授業を受けることが可能になった。
- 子どもへの危険回避のため Shikiari 小学校校舎の解体を行政に要請、作業が行われた。
- マンセラ郡議会へ継続的に働きかけた結果、同議会が KP 州首相と会談し、UC Shikiari における女子大学の設立に対し承認を得ることができた。

UC Lora：

- SNS を活用して入学キャンペーンを実施し、学校に通っていない女子の登録を促した。
- アボダバード教育局と会議を持ち、働きかけた結果、小学校計 4 校が中学校に、中学校計 2 校が高等学校レベルにアップグレードされることが決定した。
- Lora 校の水質検査の費用を負担し、清潔な水の供給ができるように取り計らった。
- 地域内の女子児童の調査を行い、中学校への進学希望者計 300 名、初級高等学校への希望者計 210 名、上級高等学校への希望者計 325 名を特定し、名簿を作成した。

	KP 州の州議会内に KPG が形成され、各地域における女子教育の課題が会議の場で共有されたことにより、州政府主導のアクションがとられた。KPG、CAG、郡教育局間の第 1 回調整会議では、女子中学校の需要の高い地域を特定した UC Ghari Hasan Zai (New Kalay 校所在地) の CAG から Boian 女子中学校の設立に関するニーズが報告された。また UC Lora の CAG からは女子中学校及び高等学校への進学率の低さが提議され、特に UC Chapgran 小学校の卒業生の進学先が皆無である点について議論された。その場で、KPG アドバイザーの KP 州教育相が 2 カ所の地域をモニタリングするよう担当オフィサーに指示を出した結果、Boian 中学校設立の案件はトルガー郡教育局、Chapgran 小学校案件はアボダバード郡教育局のフィージビリティ調査を経て、いずれも現在 KP 州初等中等教育課の承認待ちの状態である。加えて、各郡教育局の職員が対象地域の学校現場 (New Kalay 校、Judbah 校、Shinkiarri 校、Lora 校) をそれぞれ訪問し、モニタリングを実施したことは今後の密な連携につながった。また、住民の中には、モスクの礼拝で女子教育に関する啓発メッセージを発したり (UC Judbah)、女子の通う学校付近の地域で清掃キャンペーンと称して排水溝や通学路を整備する (UC Ghari Hasan Zai) などの行動変容が確認された。 上述のように、女子の教育へのアクセス向上のためのメカニズム構築に向けて、草の根及び州レベルで努力が払われた。特に、CAG は女子教育の問題を特定し、改善策を実行していくために積極的な役割を果たし始めており、これらの問題に政策レベルで義務を負う政府関係者と適宜課題の共有を行うなど連携体制が整い始めている。さらに CAG は、女子教育の課題が適切に対処されるまでのフォローアップにあたる一方、こうした継続的なプロセスを文書化することで各関係者と適宜共有する仕組み化にも貢献している。 (ア) ～ (エ) の活動を通じた直接裨益者数は 5 歳～15 歳の生徒約 3,036 名、教員 88 名、PTC32 名、及びコミュニティ・州レベルアドボカシーグループ 51 名、ならびに間接裨益者は約 337,000 名である。
(4) 持続発展性	校舎施設の工事完了後、学校長、教育局職員、PTC の立ち合いの下、各学校への引き渡し式を行い、覚書を手交した。支援した学校設備や校舎の管理は正式に行政に移譲され、学校校舎の維持管理は PTC が年次で教育局に申請し補助金が支給される仕組みとなっている。州政府が予算を確保し、学校の継続的な運営に加えて教師の雇用やその能力育成にも責任を持つことが約束されている。またソフト面においても、教育局が今後も学校への訪問モニタリングやフォローアップを継続することを確約すると同時に、本事業の現地提携団体 Friends Welfare Association (FWA) も教員、PTC、ガールズサークル及び CAG の活動に対しフォローアップを行うことが合意書に盛り込まれた。加えて、CAG からは終了後も学校環境維持や学校活動促進に協力する旨合意を得ている。 事業活動を通じて見えてきたのは、特に貧困度合や通学の困難な山間僻地が広がるトルガー郡において、社会文化的な慣習に基づく固定概念や価値観に対しどう働きかけていくかという課題である。保守的な考え方の根強い人々からは、女子の通学を阻止するような行為もしばしば見られた。本事業においては特に CAG の意識向上と活躍ぶりが目覚ましかったことから、彼らを中心とするコミュニティ間の変革の意識を後押ししながら、多様なアクターの動員によりアドボカシー活動を引き続き強化することで持続性を担保する。